様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 ２０ 日現在

機関番号：１８００１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｋ１３４３３

研究課題名（和文）沖縄県の島嶼地域における社会的養護関連職員のストレスマネジメント・システムの創造

研究課題名（英文）Building stress management systems in child care settings at Okinawan island area.

研究代表者
本村　真（MOTOMURA, Makoto）

琉球大学・人文社会学部・教授

研究者番号：３０２７４８８０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：　今回活用したリセット等の社会的養護関連職員のストレスマネジメント・スキルとしての有効性について、ワークショップ実施当日の肯定的変化が確認できた。しかし、有効性を実感したスキルであっても日々の多忙な業務の中でそのスキルを継続できるかどうかが課題となる点が、プラクティショナー・スキル取得後においても再確認できた。職員の離職予防という観点からはこのようなスキルの組織単位で活用の検討も今後の課題といえる。また、島嶼地域特有のストレスの有無については、個人が活用するストレスへの対処法等によっては豊かな自然環境の活用や身近な親族・友人等のサポートネットワークの活用が容易であるという肯定面も確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　これまで先行研究において焦点の当てられることのなかった島嶼地域の社会的養護関連職員を対象としたストレスマネジメント・スキルについて、リセット等のセルフ・ケア技法が身心両面のストレス解消に効果がある点と共に、その後の継続調査によって効果を確認されたスキルであっても継続した活用につながるとは限らない点が明確になった。研究参加者からはこのようなスキルの取得が個人的にのみでなく、他の職員を含めて組織として取り入れる必要があるという回答も多くみられた。離職予防が課題である社会的養護の現場において、このような「セルフケア」の必要性の意識の涵養および具体的スキルの効果確認ができたことは社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：In this practical studies, I conducted survey about effectiveness of particular stress management method "RESET" or "TRE". The results confirmed that the method has effectiveness as stress care for professional staffs but to improve continuity of the use of the method is issue. And also face-to-face interviews about stress management system at social care for children at Okinawan island area was conducted. The results confirmed that lack of social resources for social care is problem, but by utilizing natural environment and/or imminent human relations, island setting has positive aspects for dealing with stress in professional roles.

研究分野：児童福祉

キーワード：ストレスマネジメント　児童養護施設　TRE　リセット

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

応募者研究開始に至るまでに､児童養護施設の職員による被虐待児童への支援技法に関する研究や、児童相談所の児童虐待対応における解決志向アプローチの研究、児童虐待予防に必要な「地域」の研究等、長年にわたり児童虐待に関する研究を継続して実施してきた。また、沖縄県内の児童相談所の児童虐待への初期対応に対する外部専門家委員活動や、平成 26 年度からの沖縄県が実施する児童養護施設のスーパーバイズ活動等、実際の児童虐待対策の現場への支援にも携わり、本研究で対象とする２つの地域の児童養護施設におけるスーパーバイズ活動に加えて、同地域におけるスクールカウンセラー活動や相談機関のスーパーバイズ経験も有している。〈島嶼地域における課題〉それらの活動を通して、特に島嶼地域における課題として、専門職員のストレスマネジメントの必要性が重要であると実感している。主要都市部と比較して社会的資源が限られる状況におかれる島嶼地域においては、専門職員の数も少なく、そのような職員は多くの役割を担うことになり、多くのストレスに直面する可能性が高い。そのような専門職員のバーンアウトはその地域の児童虐待予防に多大なマイナスの影響をもたらす。そのようなバーンアウトを予防するために、個人のストレスマネジメント力を高めるシステムの構築が、特に島嶼地域では課題であると考えられた。

２．研究の目的

島嶼性と辺境性をもつ沖縄県における児童虐待の発生予防に有効な、島嶼地域における要保護児童に関わる専門職員のストレスマネジメント・システムの創造が最終的な目的となる。そのために、１）島嶼地域の要保護児童等に関わる社会的養護に関係する専門職員のストレスマネジメントの方法として、個人で行うエクササイズ・メソッドであるリセットや TRE の有効性の検証、２）島嶼地域における児童養護施設を拠点とした関連専門職員のストレスマネジメント・システムの構築と有効性の検証を実施する。具体的研究方法としては、沖縄県の宮古島および石垣島を対象地域とし、児童養護施設職員や里親を含む要保護児童に関わる専門職員を対象にリセット等のストレスマネジメント技法としての有効性を検証し、児童養護施設を拠点としたリセット等の個人で実践可能な技法を柱とした島嶼地域のストレスマネジメント・システムの構築とその有効性の検証を行う。

３．研究の方法

【2016 年度：宮古島市内における実践研究】

（１）ストレスマネジメント技法であるＴＲＥ・リセットの宮古島市内の社会的養護関連職員のストレスマネジメント・スキルとしての有効性を確認するために以下を実施。

①TRE ワークショップの実施：有資格者３名が市内の児童養護施設を会場とした２回のワークショップを実施した。各回ワークショップの定員は１０名程度とし、セミ・クローズドで参加者を募集し、同様のワークショップを合計４回実施した（２回×２期間)。

②TRE およびリセットの有効性に関する調査：事前・事後の「専門職の QOL-第 4 版」(© B. Hudnall Stamm, 1997-2005. Professional Quality of Life: Compassion Satisfaction and Fatigue Subscales, R-Ⅳ. (ProQOL),日本語版）の調査実施および、個別の聞取り調査の実施を通して、本技法の有効性を明らかにした。

（２）宮古島市内における児童養護施設を拠点とした関連専門職員のストレスマネジメント・システムの構築と有効性の検証するために、上記ワークショップ参加者を対象として、ストレスマネジメントおよび、児童養護施設を核にした関連専門職員支援に関するインタビュー調査を実施した。

【2017 年度：石垣市内における実践研究】

（１）ストレスマネジメント技法であるＴＲＥ・リセットの石垣市内の社会的養護関連職員のストレスマネジメント・スキルとしての有効性を確認するために以下を実施。

①TRE ワークショップの実施：有資格者３名が市内の児童養護施設を会場とした２回のワークショップを実施した。各回ワークショップの定員は１０名程度とし、セミ・クローズドで参加者を募集し、同様のワークショップを合計４回実施した（２回×２期間)。

②TRE およびリセットの有効性に関する調査：事前・事後の「専門職の QOL-第 4 版」(© B. Hudnall Stamm, 1997-2005. Professional Quality of Life: Compassion Satisfaction and Fatigue Subscales, R-Ⅳ. (ProQOL),日本語版）の調査実施および、個別の聞取り調査の実施を通して、本技法の有効性を明らかにした。

（２）石垣市内における児童養護施設を拠点とした関連専門職員のストレスマネジメント・システムの構築と有効性の検証するために、上記ワークショップ参加者を対象として、ストレスマネジメントおよび、児童養護施設を核にした関連専門職員支援に関するインタビュー調査を実施した。

【2018 年度：石垣市・宮古島市内におけるトレーナー養成を交えた実践研究】

（１）ストレスマネジメント技法であるリセットの社会的養護関連職員のストレスマネジメント・スキルとしての有効性を確認するために以下を実施。

①リセットのトレーナー養成ワークショップの実施：有資格者３名が石垣市および宮古島市内の児童養護施設を会場とした各２回のワークショップを実施した。各回ワークショップの定員は１０名程度とし、セミ・クローズドで参加者を募集し、同様のワークショップを合計４回

実施した（２回×２期間）。
②リセットの有効性に関する調査：事前・事後の「専門職の QOL-第４版」(© B. Hudnall Stamm, 1997-2005. Professional Quality of Life: Compassion Satisfaction and Fatigue Subscales, R-Ⅳ. (ProQOL),日本語版）の調査実施および、個別の聞取り調査の実施を通して、本技法の有効性を明らかにすると共に、事後のフォローアップも試みた。
（２）宮古島市内における児童養護施設を拠点とした関連専門職員のストレスマネジメント・システムの構築と有効性の検証するために、上記ワークショップ参加者を対象として、ストレスマネジメントおよび、児童養護施設を核にした関連専門職員支援に関するインタビュー調査を実施した。

４．研究成果

【島嶼地域特有のストレスについて】その有無については、その地域の出身者であるかどうかやストレス発散方法の種類等がその差につながっている。具体的には出身者でありかつ自発的にその地域に職を求めて帰郷している場合には、生活圏に親族や友人等の交流によってストレスを発散することを可能とする人的資源を有していることがポジティブな面として複数あげられている。また、商業施設が少ない事により休日の過ごし方について都市部と比較して制限が生じる点をマイナス点としてあげる回答もみられるが、そのような回答よりもポジティブな面、すなわち、釣り、自然散策等島嶼地域の自然環境を活用するストレス発散方法が気軽に実施できる点の回答が優勢であった。生活圏の狭さにより利用者との接触機会が多くなることによるストレスの有無については、それをストレスとする回答は限定的であった。ただし、研修機会が限られることや、課題解決に向けての連携先が少ない状況は職務遂行を難しくし、それがストレスにつながるという回答がみられた。

【ストレスマネジメントシステムの現状について】いずれの地域において職場組織を超えた研修会の実施は十分に行われておらず、ストレスを原因として離職する職員が存在する事が確認された。他の職員とのつながりが弱く、悩みを職員間で共有せずに抱え込む事による離職の事例がいずれにおいても確認された。また、ストレスマネジメントと共に、専門スキルの向上をはかるための研修会の実施の必要性に関する指摘もあり、また、支援上の課題を解決するヒントを提供する専門家へのニーズも確認された。児童養護施設を核にした研修会実施については、施設への理解を深める機会になるという点を含めて、肯定的な意見が多くみられた。

【ストレスマネジメント技法の有効性】TRE およびリセットについて、研修前後の自身の心理的・身体的なポジティブな変化があるとする回答がいずれの地域においても多くみられた。自覚的に内発的な振動を実感し、潜在的な身体機能への気づきについて驚きと共にそのリラックス効果を実感したとする回答が複数みられた。特にリセットについてはより繊細で穏やかな振動がその特徴として示された。それと同時に、いずれの地域においても社会的養護関連職員の職務の多忙さの影響もあると考えられるが、事後のアンケートの回収率も良くなく、回答の内容においても研修後の継続に関する課題が確認された。

【新たな展開課題】いずれの地域においても今回採用したストレスマネジメント技法であるリセットのプラクティショナーがいない状況であり、本来的には研修会後に個人で実施する事が可能な技法であるが、その有効性が実感された場合においても個人的な活用として継続しない場合が多い状況が確認された。この技法を継続的に地域で展開するためには、当地におけるプラクティショナー養成も課題となる可能性があることが確認された。

【プラクティショナー養成の有効性】プラクティショナー養成に際し、新たにメール等でのフォローアップを試みたが、多忙な職務への対応がその原因として推測されるが、研修会後の継続的な活用については、従来のワークショップと比較して顕著な変化は確認出来なかった。従来より個々の職員で活用していたストレスへ対処するための方法が十分に効果を発揮しているが故に、新しい技法へのニーズが高くない事がその要因となっているのか、新しい技法の習得が十分でなく継続につながっていないのか、あるいは新しい技法に対する新規性が薄れると共にその効果の実感が減じてしまい継続につながらないのか等の視点を交えた分析が今後の課題となる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　0　件）

〔学会発表〕（計　1　件）
１．発表者名：本村真、発表標題：児童養護施設における職員のセルフ・ストレスマネジメント実践　－島嶼地域におけるセルフケア技法の活用に関する研究－、学会等名：日本児童養護実践学会、発表年：2018 年

〔図書〕（計　0　件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：
ローマ字氏名：
所属研究機関名：
部局名：
職名：
研究者番号（8 桁）：

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。